



# トムトム通信



## トムトムの理念

ハンディのある方とご家族が地域の暮らしの中でノーマライゼーションを実現するためには利用者が選択できる豊かなサービスが必要です。トムトムはパーソナルサービスを提供するシステムの中で、年齢やその障がいの種別にかかわらず利用者主体のサービスの確立をめざします。

## トムトム変革の年度 ～支援費制度から新制度へ～

常勤職員：本岡 太郎

トムトムを取り巻く状況が大きく変わり始めています。  
ふりかえると支援費制度が開始されたことによって、トムトムに大きな変化をもたらしました。

支援費制度開始前は、学齢期の利用者の方々にとって、トムトム以外に利用できる事業所も少なかったという状況でした。また、サービス利用の時に負担していただいた利用料金、年会費、寄付などが運営費の大半であり、その費用でサービスを利用・提供するという仕組みでした。  
個別な支援を自費サービスだけで運営していくにも限界が見えてきました。

2年前に支援費制度が始まり、トムトムを利用するのに公的な制度を使って利用・提供が可能になりました。(市町での差が今までよりも表立ってきました。)トムトムの財政状況も一時的に改善されました。また、トムトム以外にも利用できる事業所が増えてきました。

そして、また大きな変化が起きています。運営面ではこの4月から支援費でのサービス利用を行った際に支払われる費用の切り下げが実施されました。(トムトムの事業収入が大きく減る結果になります。)  
そして現在、国会で審議されている障害者自立支援法案が成立すると、福祉制度が大きく変わります。

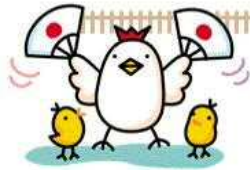
トムトムにも大きな影響が出ます。一つには、今利用されている移動介護の利用内容が国の制度から切り離され、各市町村によって実施されるものになる可能性が高くなっています。つまり、茅ヶ崎市、平塚市、寒川町がそれぞれ行う事業が変わってしまいます。その結果、このままでは、学齢の方たちの放課後や長期休暇を、今のように移動介護と同じようなサービスを中心として担っていくのが厳しくなると予想されます。  
その一番の背景には予算不足になってしまったという国の事情があります。

トムトムとしても待たなしの状況になりました。  
事業を縮小して職員を減らすか、あらたに事業を拡大していくか、二つに一つの選択を迫られ、結論として、今後も茅ヶ崎、寒川、平塚地域を中心に継続的にサービスを行っていくために、常勤職員が責任を持って事業を拡大する方向で動いていくことにしました。



まずは、今年度の8月には平塚に新たに事業所を開設します。地域格差が広がってきている状況の中、茅ヶ崎・寒川地区と平塚地区のそれぞれ拠点で、それぞれの地域の状況に合わせたサービスが行える基盤を早急に整えたいと考えています。

手をこまねいていても状況が良くなることはありません。常勤職員を中心に困難な状況を乗り切れるように努力していきたいと思います。会員の方々をはじめ、トムトムを支えて下さる皆様のご理解とご協力を今後もよろしくお願いいたします。



## リレートーク!



寒川町在住

山根 信子

**梢でよかった!**これがダウン症の娘をもって18年と10ヶ月を迎えたこの頃の想いです。

生を受けてから今までそれはもう星の数ほどのエピソードに恵まれて(?)きました。この春茅ヶ崎養護学校を卒業しましたが、その式の最中でさえハラハラと苦笑の連続でした。こういって、とんでもない子供のようなのですが、実に愛嬌のある娘です。身長143cm、体重60kg強、ぼってりおなかにメガネの丸顔、う〜んと良く言えばグラマーなプロポーションだけでも、愛嬌のかたまり。そのうえダジャレとおやしギャグがすき、お笑い大好き。今はギター侍に恋しています。「私を見て笑って!」とおかしなことを言うくらい、人を笑わせる(笑ってもらう)のが好き。こんな梢ですから、ヘルパーさんから「楽しかった!」と言ってもらうと、半分お世辞でも親としてはうれしいものです。といて陽気な面ばかりではなく、一人静かに遊ぶこともできるのです。一つは包帯を使います。実に上手に巻きます。そしてほどいてまた巻く。黙々とくり返しています。そしてもう一つは“コレ”色とりどりの、プラスチック製でつないでネックレス等をつくる、子供の頃のおもちゃ(本人はラブ・チェーンと呼びます)。色別に分けて長くつないでまたバラす。そんなことを何時間も続けています。この2つは梢の生活になくてはならないアイテムです。また、とてもやさしい面も持っています。梢にいじわるをした友達が先生が叱り、その子が泣き出したとき、梢はだまってその友達を抱きしめたそうです。「なんていい子なの!」と親バカにも感激してしまいました。ある時突然「お母さん、生まれてありがとう」とニコニコしながら言うのです。「ん?」どうも「生んでくれてありがとう」と言いたかったようです。少し前に性教育の授業があったことを思い出しました。それから時々、やっぱり「生まれてありがとう」を言ってくれて、「ここに赤ちゃんがいるんだよね」と私のおなかに手をやります。(違う!これは。。。)とひきつりながら、



「残念ね、赤ちゃんはいないのよ」とやさしく諭すのでした。たとえ授業で教わったこととはいえ、度々言われると「この子から先にこんなことを言われるなんて」と思うようになり、本人がどこまで理解しているのかわかりませんが、最近「生まれてくれてありがとう」とテレながらも返せるようになりました。

未熟児で生まれ、ダウン症とわかり、心臓に疾患を持ち、2才で手術を受けるまでに6回の入退院をくり返し、死にかけたこともあり。それでも7時間に及ぶ手術は耐えられ現在、健康そのものでいられるのは、梢に生命力があったからだと思います。その強い力に私達は支えられてきたのかもしれない。これまで梢に費やして時間も体力も知恵も努力も、全ては今の梢のためだったと実感しています。何一つ無駄なことはなかったと、今なら言えます。今、人生の大きな節目に立ち、学生ではない大人としての長い長い生活が始まろうとしています。社会の中で、職場という新たな場で、たくさんの方に支えられながら、梢らしくその豊かな感性を持ち続けたいと願っています。



## リレートーク!



茅ヶ崎市在住

奥津 幸子

**こんにちは。**いつもトムトムスタッフの皆さんには、将裕がお世話になりありがとうございます。

7ヶ月で生まれ、極小未熟児だった将裕がこの春にはとうとう高等部3年最上級生になります。トムトムのスタートと同時にお世話になっていきますので、もう何年になるでしょう。あの頃はまだ、ひげも生えていないかわいらしい小学生でした。だんだん「奥津君」と、呼ばれることが多くなってきましたが、最初に出会った時のまま、「まー君」と呼んでくれるスタッフに出会うと、何だか妙にうれしくなってしまう母です。当初は、トムトムに預けるという事に親も不慣れで、また、料金の高さ(ゴメンナサイ)もあって、なかなか上手い利用が出来ずにいました。それでも私の都合で朝学校まで送って頂いたり、夕方までみて頂いたり、骨折して入院した時は、一時帰宅するのに、車椅子のまま乗車出来るのでトムトムに送迎をお願いしたり、私が困っている時どんなに助けられたかわかりません。と、こんな事を書くともトムトムは親のため?なんて言われてしまうかしら。

いえいえ最近では、特に支援費制度が始ってからは、将裕の為のトムトムに変わってきました。自分の行きたい場所に、自分で行けない、家族の誰かがじゃあ行こうか、と言わなければ、欲しい物を買に行く事も出来ない、でもそんな生活が当たり前で、文句一つ言わずに過ごしてきた将裕ですが、今では、トムトムの利用日を楽しみに、今度は何買おう、何処に行こうと、自分なりに考えてみたり、親が側にいない開放感でのびのびしています。また親に話せない事も、ヘルパーさんに話しているようで、良き相談相手になって下さっているようです。先日にもバレンタインデイのお返しを一緒に買いに行ってくださり、「男は色々たいへんだな」なんて話していました。

さあ、いよいよ後一年で社会に出て行きます。これからの方が長いのですよね。少しでも自立して欲しいと親は願っていますが、全て一人で出来る訳では有りません。これからも色々な人の支援を必要とし、お世話になることでしょう。その支援者の一人としてトムトムのみなさん、ずっとずっと末永く将裕の事見守っていて下さい。どうぞよろしくお願いいたします。





# 2004年度後半期の足跡

足跡



11月13日  
鶴峯東「コミセンふれあいまつり」に地域活動として参加しました。トムトムは子ども達にヨーヨー売りをしました。でも用意してあったヨーヨーは瞬間に完売！お天気も良く、ものすごい人出でした…。



良い子にはプレゼントをあげよう！

12月24日、クリスマスカレーパーティー☆  
ん？このサンタさんどこかで見たような…？



んまい

# トムトム☆スプリングコンサート報告



\*\*\*\*\*  
\* 2005年3月13日 \*  
\* 茅ヶ崎市海岸青少年会館にて毎年、恒例となっている茅ヶ崎高校吹奏楽部OB会吹奏楽団の皆さんがトムトムのために、今年も演奏会を開催してくださいました。 \*  
\*\*\*\*\*



# 2004年度後半期の足跡

足跡

「アメニティーフォーラムINしが8」へ研修に行って来ました！



## 研修報告 常勤：吉田 訓子

2005年2月11日から13日の3日間、滋賀県の琵琶湖のほとりにあるプリンスホテルで「アメニティーフォーラムINしが8」が開催されました。

まず会場につき、その大きさにびっくり。体育館ほどもある大きな会場には、会議用の机とイスがズラリと並べられ、正面には舞台、2カ所に特大モニターが設置されていました。その会場を取りまく様に廊下があり、その廊下では机2個分くらいのブースが20あまり設置されていました。そこで地元の滋賀県や各地域の事業所が、おのこの紹介をしていました。

職員の方がとても頑張っている作業所や、ボランティアでなんとか踏ん張っている地域福祉センター、社協（社会福祉協議会）やNPOなどの法人、有限会社、本当にいろいろなやり方があるのだなあと参考になりました。

トムトムでも入り口の目立つ場所にブースを出すことが出来、大きなパネルにトムトムの生い立ちと利用者さん（許可をいただいています）の笑顔の写真を貼って、いろいろな方達に関心をもって頂き、今後も交流を持っていけるようトムトムの宣伝をしました。

参加人数約1600名（！）。事業所や当事者、役所の方などが集まり、テーマである「地域福祉をより確実に！」についてプログラムに添って、朝から深夜まで真剣に話し合いをしました。また、藤井則夫さん（厚生省労働局介護保険課課長）松島賢さん（厚生労働省障害福祉課課長）他たくさんの福祉の最先端にいる方たちや、滋賀をはじめとする全国の政治家の方たちの講演を聴くことができました。

今までしょうがい者の方たちは施設で暮らすことを余儀なくされてきました。昨今施設解体が叫ばれ、地域で暮らす方たちが増えてきましたが、まだまだ地域での受け入れ体制が万全ではありません。ヘルパーを使っの24時間体制の介護や、地域の小学校や中学校の受け入れ体制、また就



労りたい方を受け入れて下さる企業が少ないことなどたくさん問題点があげられました。その様な問題点について、いろいろな地域での試みが紹介されました。印象に残ったのは、当事者の方たちが働きかけをし、24時間体制の介護が可能になったり、また当事者の方が立ち上げた作業所で多くの方たちがパンを作っていて成功している事、などでした。

また今回の話の目玉である、厚生省が出した支援費（移動介護・居宅介護を含む）の改革案「グランドデザイン」が、今後どのようなようになっていくかは、「市や町（地域）で出来ることは市や町です」という考えのもと、国から出るお金がへり、また使い道に関しても、限定したかたちで出されるようになるだろう、ということや、支援費が無くなっちゃうの？いやいや形が変わるだけ？知的しょうがい者は使えなくなるの？余暇支援は無くなっちゃうの？などいろいろな不安や不満が上げられ、国や県の方たちが返答につまるような場面もみられました。しょうがい者支援法についてはあまりにも未確定なことが多く、憶測や仮定での話が多くほんやりとした枠組みしかわかりませんでした（平成17年2月末現在）

今後、私たち事業所が出来ることは何なのかを考えさせられました。ここで得た知識を役立て、無駄にしないようがんばっていきこうと心に決めた3日間でした。



研修報告

理事 大野 裕子

アメニティフォーラムとは何かも知らず会長の代理として勢いで参加させて頂いたような私でしたが、過去に参加された方達が口を揃えてその印象を伝えていらしたように“やはりスゴイ”とまずは圧倒されました。

全国各地からの受講者数だけでも千人を遙かに越え、その席を埋めつくしている巨大な会場の様子も圧巻そのものでしたが、それにも増して壇上の方達の草々たる面々にも驚きを隠せませんでした。福祉を第一線で支えている方達、あるいはその道の名立たる実践家から制度を作り上げ施行する側、施策を打ち出す側の方達までこんなにも多くの方達が滋賀の地で一堂に会するのはやはりアメニティならではの事なのでしょう。そしてそれらの方達の勇気を得られるような力強い実践報告や生の声、白熱したディスカッションの様子などを間近で見聞きできたこと、さらに全国規模で交流ができたことなど本当に貴重な体験であったと実感しています。当初は“三日間も”との感でしたがいざ参加してみると“三日しかない”との思いにすぐ変わってしまうほど密度の濃いプログラムで、しかも一同に会せるこの限られた時間を最大限に活用したいという思いからか深夜（あるいは明け方？）までビッシリスケジュール、おかげで帰路の車中ではもうグッタリで隣席の同行者と会話する元気もありませんでした。でもそれは単に体力的な疲労のせいだけでなく制度改正の事を含む苦しいお土産もたくさんあったせいだと思います。

そしてその“アメニティフォーラムINしが”も残念ながら次回で終わりだそうです。それは当初の目的が達成できたからでしょうか？あるいは発展的解消なのでしょう？いくら香気な私でもとてもそんな楽観視はできません。官も民も“地域で生きる”を強調している昨今、確かにグランドデザインで国の指針は明示されてはぎえても、良くも悪くもやはり地域差は逃れ得ないように感じます。社会事情から見たら必ずしもこの分野だけが辛苦を味わっているのではないかも知れませんがでも現実問題として年々状況が厳しくなり混乱も増してきていることは事実です。利用者側もそしてトムトムもちゃんと地域で生き抜いていけるのでしょうか？そんな不安を抱いて滋賀の地を後にしました。



新
ヘルパー紹介！

---

いんせき さきこ  
**岩本 貞子デス☆**

★

**12月登録**

昨年の12月よりヘルパーとして活動させて頂いております。不慣れの上、月に数回しか出来ず、返って足手まといゆなと心苦しく思っております。でも、トムトムに集まる皆様のすばらしく明るく元気なパワーをいただきながら、皆様との出会いを大切にしたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

ささき しげのり  
**佐々木 隆雅デス☆**

★

**1月登録**

1月17日からお世話になってます佐々木重雅です。利用者の皆さんの社会参加を他のスタッフと協力してお手伝いしたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

---

おひり ゆうこ  
**綱引 裕子デス♪**

★

**3月登録**

初めまして 綱引裕子です。3月からヘルパーとして活動させて頂いております。去年の11月にヘルパー2級を取得したばかりで、まだまだ未熟ですが、一生懸命、がんばっていきたく思います。ご利用者、ご家族の方、職員の皆様と元気で楽しく、沢山の思い出をつくりたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。





## 賛助会員を募集!



今年も賛助会員サポートよろしくお祈りします!

トムトムは神奈川県茅ヶ崎市で1999年7月に設立しました。ハンディキャップのあるご本人とごご家族に対して、主に生活支援を行っているセンターです。トムトムは利用される方の年会費、利用料と、多くの方々のご寄付により運営しています。

トムトムの趣旨に賛同し、運営面においてマネーサポートしてくださる方を募集しています。何時ご加入頂いてもOKです。尚、会員の登録期間は、毎年4月1日～翌年3月末日を一区切りとさせて頂いています。

どうぞよろしくお願いいたします。

【個人・団体共に】年間1口:3,000円(何口でも結構です)

【郵便口座番号】00290-3-47042

【口座名義】特定非営利活動法人パーソナルサービスセンタートムトム



ご支援ありがとうございます!

2004年11月5日～2005年6月30日現在

賛助会員・ご寄付各位

ボランティア各位

ヘルパー

急募

障がい児・者の方々に付き添っていただくことが基本で、そこから先はそれぞれ利用者さんによってニーズは異なりますが、例えば一緒にトムトムで過ごしたり、近くの公園や公共施設等に出かけたり、プールに行ったり、公園で遊んだりしていただきます。病院や学校への送迎のガイドヘルプの仕事もあります。身辺のお手伝いで食事、入浴、トイレなどの介助のお仕事。これら全てをお願いする訳ではなく、面接でお話させて頂き、ご相談にはもちろん応じます。現場に入って頂く前には必ず、詳細な内容を説明させていただきます。詳細はホームページをご覧ください。

去る2005年3月13日、利用会員の鈴木秀信様をご逝去されました。  
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

NPO法人 パーソナルサービスセンタートムトム

〒253-0071 神奈川県茅ヶ崎市萩園1624-2

電話/fax 0467 (58) 8335

携帯電話 090-3087-3220(緊急用)

Eメール tom-tom@aw.wakwak.com

8ページ

トムトムホームページアドレス

<http://www.npo-tomtom.com/>